

経営比較分析表（令和3年度決算）

長野県松本市 松本市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	その他
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	27	対象	ド透未訓	救臨感輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
236,968	17,999	非該当	非該当	7：1

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
193	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	6	199
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
174	-	174

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	令和3年度全国平均

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

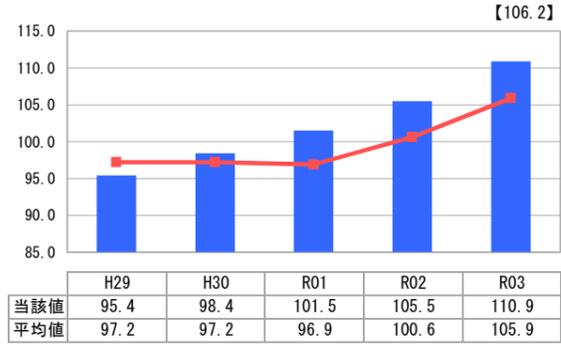
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

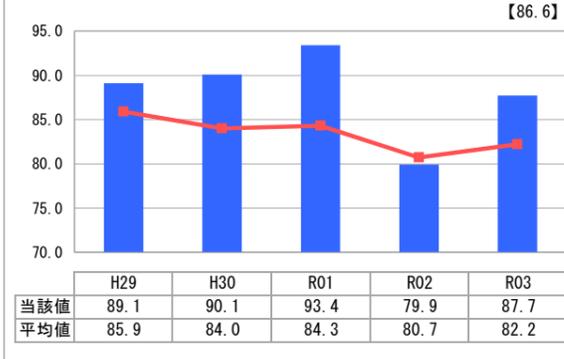
再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成30年度	-	-
年度	年度	年度

1. 経営の健全性・効率性

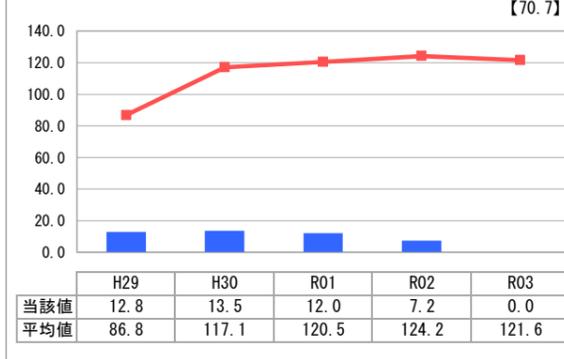
① 経常収支比率（%）



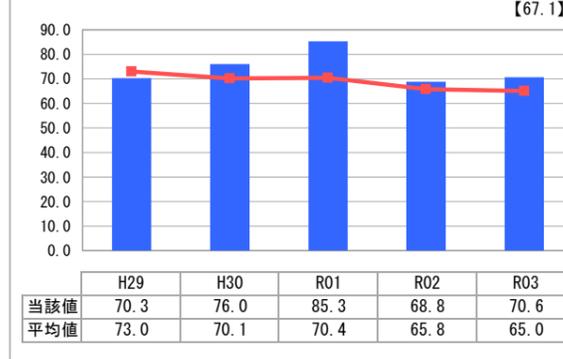
② 医業収支比率（%）



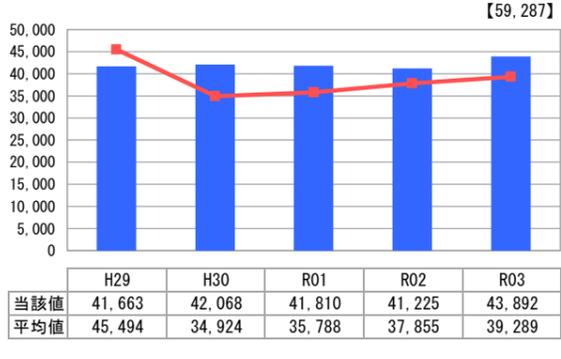
③ 累積欠損比率（%）



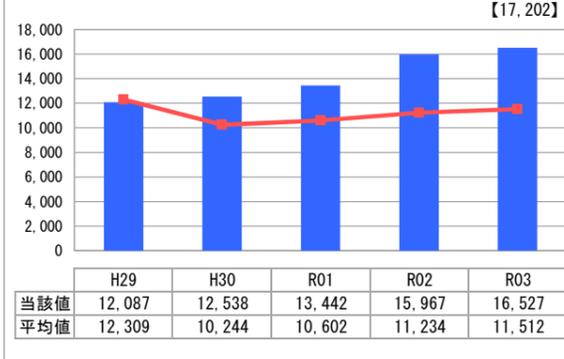
④ 病床利用率（%）



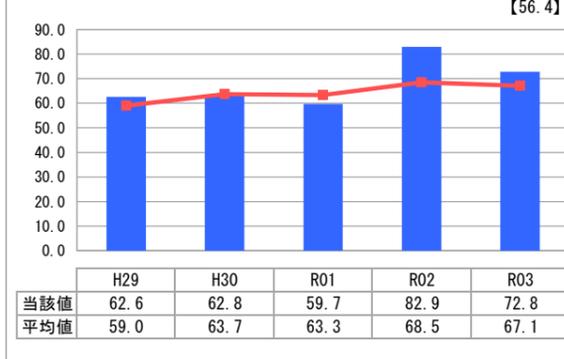
⑤ 入院患者1人1日当たり収益（円）



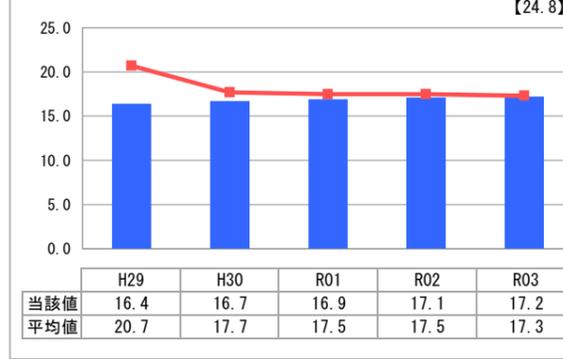
⑥ 外来患者1人1日当たり収益（円）



⑦ 職員給与費対医業収益比率（%）

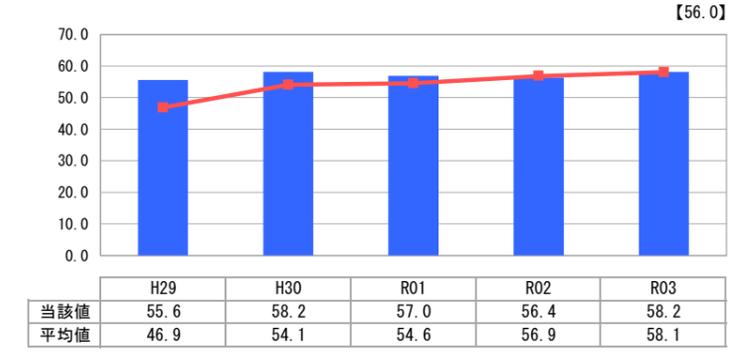


⑧ 材料費対医業収益比率（%）

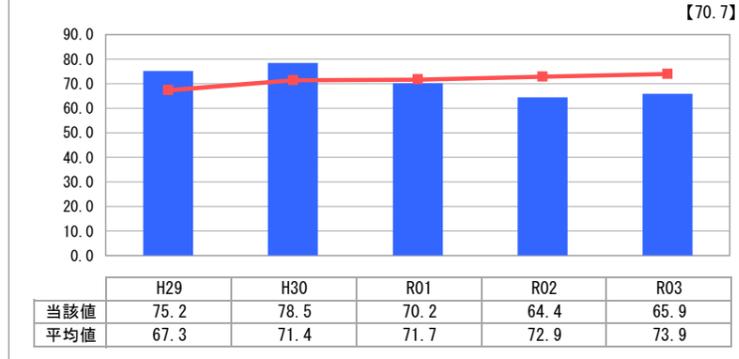


2. 老朽化の状況

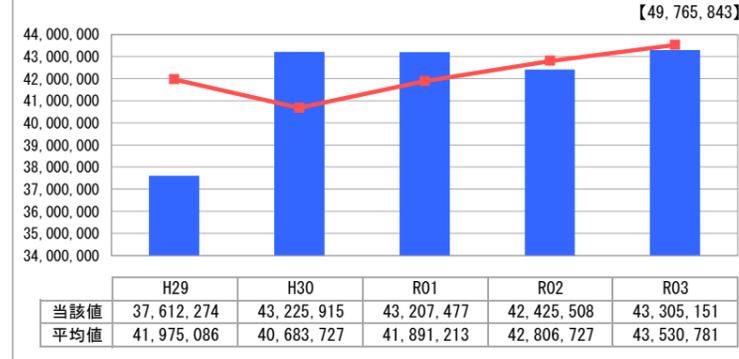
① 有形固定資産減価償却率（%）



② 器械備品減価償却率（%）



③ 1床当たり有形固定資産（円）



I 地域において担っている役割

松本医療圏の西部に位置し、松本市西部地域における唯一の病院です。
 平成30年4月に市内の旧国民健康保険会田病院を廃止し、診療所化して経営統合しました。また、同年10月には松本市立病院建設基本計画に基づく病床数削減を前倒しで実施しました。
 公立病院として、救急医療、災害時における医療、へき地医療、周産期医療、小児医療など、地域に必要な医療の提供を政策的に担っています。
 また、松本医療圏における第二種感染症指定病院として、コロナ禍において松本医療圏で中心的な役割を果たしています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

新型コロナウイルス感染症重点医療機関として陽性患者等の受け入れを引き続き行いました。併せて、令和2年度には患者さんの一般診療受診控えがありました。また、ドライプルス形式の発熱外来や、感染症病棟の管理を徹底していることが周知・浸透したことにより、医業収支比率は87.7%と上昇し、結果として職員給与対医業収益比率は低下しました。
 また、医業収益が回復するとともに、令和2年度に引き続き、重点医療機関として病床確保料など新型コロナウイルス感染症関連補助金により、経常収支比率は110.9%と上昇しました。
 令和2年度及び3年度は病床確保料により黒字化した側面もあり、コロナ後も経常収支黒字を維持するためには、一般診療の回復と経費節減が必要不可欠です。

2. 老朽化の状況について

1床あたりの有形固定資産は、平成29年度までは平均を下回っていましたが、平成30年度の病床数削減及び診療所の経営統合により大幅な増加となった経過があります。有形固定資産減価償却率は、58.2%と平均値を0.1ポイント上回りました。
 令和元年度の電子カルテシステム更新及び令和2年度の新型コロナウイルス感染症対応医療機器の購入により、器械備品減価償却率は低下傾向にある中、令和3年度は若干償却が進みましたが、平均値と比較すると8.0ポイント下回りました。
 全体的に施設及び設備の老朽化が進んでいる状況であり、特に東病棟及び外来部門は建設から37年が経過し、快適な診療環境とは言えない状況も見受けられます。令和3年度には病院の隣接地への移転建替えに向けた基本計画が策定されましたので、実現に向け、取組みを進めます。

全体総括

令和3年度は令和8年度中の開院を目指し、新病院建設に係る基本計画を策定し、新たな段階へ歩みを進めましたが、令和2年度と同様に新型コロナウイルス感染症への対応に追われていた年でもありました。関連補助金等の影響もあり、結果的に3期連続の単年度経常黒字となり、平成26年度から続いていた累積欠損金も解消し、累積黒字に転じましたが、不透明な状況が続くコロナ禍において、感染症指定医療機関として、フェーズに応じた感染症管理区域の設置・運営など、引き続き新型コロナウイルス感染症への適切な対応に努めるとともに、アフターコロナを見据え、一般診療を回復させ、規模に見合った設備投資、人員配置により安定経営を心がけ、新病院建設を実現するための取組みを進めます。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。